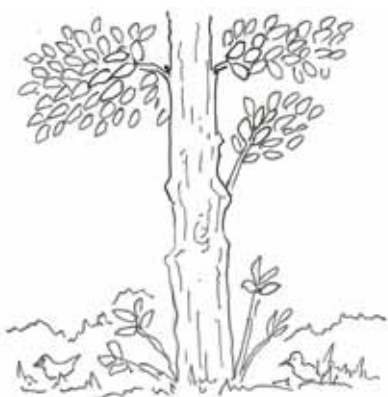


「世界のクロサワ」として名を馳せた黒澤明監督がセットでの撮影に入る際、出演者やスタッフ全員で行なったことがありますがそれは、セットに組まれた大道具などを雑巾で乾拭きすること。主役をはじめとした出演者はもちろん、数々の専門スタッフなど、撮影にかかわる人は全て参加したといえます。この乾拭きの作業を終えると、参加した誰もが「今までやったことのないようないい仕事をしよう」という気になるのだそうです。

多くの作品を世に送り出しながら、映画配給会社や俳優とのトラブルは多数あり、またロケ現場に建っていた民家が撮影に邪魔と立ち退きを迫るなど、破天荒な一面を持つ同監督です。しかし撮影現場におけるこのような細やかな取り組みにより、出演者やスタッフの能力が存分に引き出されるという効果が、作品の背景にあるようです。

映画制作でも企業経営でも、多くの人のかわり合いの中で成果が生み出されます。そこに携わる人たちの能力を如何に引き出すかが、リーダーの手腕であり、また醍醐味であるともいえるでしょう。

そうした強力なリーダーシップを礎として、「率先垂範力」を高めていくためには、確固たる信念が求められます。リーダーが迷いや不安に苛まれていくようでは、物事は思うようにならず、組織は衰退していきます。「事をなすの根本の力は信念である」（『万人幸福の菜』）です。リーダーとして、必ずやる、必ずできると心を定める時、その身にエネルギーが湧いてくるものです。



## 事を成す祈りが 大きな力を生む

その信念を固めるために、古来、人は決心し、誓いを立て、祈りを捧げてきたのです。さて、祈りについて『万人幸福の菜』には「祈りは、神にすがって信念を確立するのであり、大宇宙の大信念と一致しようとするのである。祈るときすでに成就したものと見えとは、そのことである」とあります。「大宇宙の大信念」とは、全てのものはよりよくなるうとしていて、という古来日本人が持っていた世界観で、「生成発展」と呼ばれる大原理のことです。

純粹倫理の苦難観の背景にも、この生成発展があります。それは眼前に立ちふさがる様々な苦難は、その人をさらに向上、進歩させるために起こっていると思え止めることをいいます。

事を成そうとする過程では、必ず様々な障害が起こります。そのような時、「よし、わが社がますます立派になるチャンスがきた」と捉えられれば、勇気が湧いてくるものです。大宇宙の原理と一致した祈りは、大きな信念となつてリーダーの身中に強力なエネルギーを生むのです。

とはいえ、祈ればそれでいいというものではありません。成そうとすることが、単に「自社だけの繁栄」の域を出ないようでは、大宇宙の原理との一致とはいえないでしょう。社業を通じて如何に社会に貢献できるかという要素があつて初めて、大宇宙の大信念と一致するといえるのです。

え・栗木 映  
「経営者モーニングセミナー」などの学びの場において、リーダーとしての心を強く磨いてまいりましょう。